

What's up,

OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分!)

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 69》2018年11月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～
【津久見市／竹田市】



(津久見市)
つみイルカ島



(津久見市)
ひゅうが井



(竹田市)
久住高原ロードパーク



(竹田市)
姫だるま

ブラジル大分県人会65周年記念式典が開催されました

ブラジル大分県人会創立65周年、県費留学制度発足50周年、技術研修制度40周年を記念した式典が、9月29日、サンパウロで会員約300人の出席の下、開催されました。大分県から安東隆副知事、井上伸史県議会議員、また大分県人会インターナショナルから薬師寺会長、藤原副会長、ニューヨーク在住の歌手平野トシ氏など、14名がお祝いに駆けつけました。

式典では、日伯両国歌斉唱、先没者に対する黙祷が捧げられ、安東副知事が広瀬知事の祝辞を代読しました。また、各種顕彰が行われたほか、研修生OBの小村カーナみほさんが、研修の成果や大分での思い出を話しました。式典後は、安東副知事が県政概要について講演し、大分県の現状を説明しました。

引き続き行われた祝賀会は、玉田会長、安東副知事、井上県議会議員、野口総領事によるケーキカットで始まり、アトラクションとして歌謡ショーやサンバショーが披露されました。



ブラジル大分県人会の皆様と



式典ステージ



サンバショー

今回の訪伯では、県人会の歴史と伝統、そしてそれを培ってきた役員はじめ、会員の方がいかにご尽力されてきたかを感じるとともに、これから県人会と郷土おおいたとの交流は、大分県での留学や研修を経験した若い人に受け継がれていくものと確信しました。

ラグビーワールドカップ大分開催1年前イベントが開催されました

10月12日(金)から14日(日)までの3日間、パークプレイス大分で、ラグビーワールドカップ2019™(以下RWC2019)日本大会大分開催1年前イベントを行いました。ステージイベントでは、RWC2019アンバサダーでラグビー元日本代表の大畑大介氏やRWC2019ドリームサポーターでサッカー解説者の松木安太郎氏によるトークショー、そして、ニュージーランド、オーストラリア、ウェールズやウルグアイなどの大会出場来県チームにゆかりのある多彩なパフォーマンスが繰り広げられました。

期間中ラグビーワールドカップ優勝トロフィー「ウェブ・エリス・カップ」などが展示されたポップアップミュージアムや、大会公式マスコット「レンジー」も登場し、会場は写真を撮る多くの人で賑わっていました。また、ラグビー体験コーナーを楽しみながらのスタンプラリーなど、さまざまな催しで会場は大いに盛り上がり、家族連れや子どもなど約1万7千人もの方々にご来場いただきました。世界最高のラグビーの祭典まであと1年となったことを多くの県民にアピールできた楽しい3日間となりました。

【ラグビーワールドカップ2019推進課】

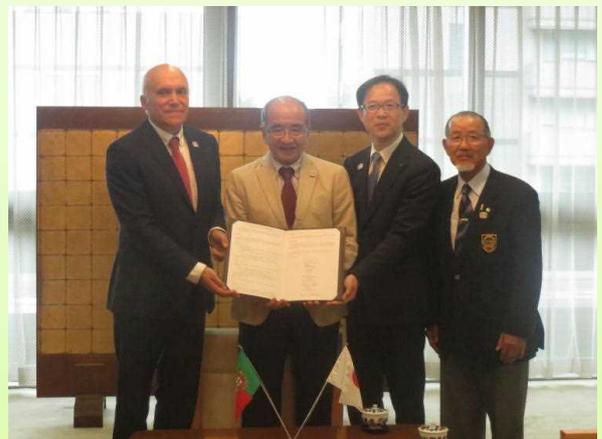


ポルトガル陸上競技代表チーム事前キャンプ協定締結

10月4日(木)に大分県庁で、ポルトガル陸上競技連盟と大分県、大分市、大分陸上競技協会の4者により、東京2020オリンピック競技大会におけるポルトガル陸上競技代表チームの協定書締結式が行われました。

大分県と大分市は、大分陸上競技協会とともに、事前キャンプ誘致に向けてポルトガル陸上競技連盟と協議を進めてきました。その結果、ポルトガル陸上競技代表チームが、大分市の大分スポーツ公園で東京2020オリンピック競技大会の事前キャンプを実施することで合意しました。東京2020オリンピック競技大会の事前キャンプの海外代表チームの決定はマレーシア代表チーム(中津市)に続き、2件目になります。

締結式に出席した広瀬知事は、「2015年の世界陸上北京大会の事前キャンプの受け入れが、今回の協定書締結に結びついたことは誠に喜ばしいこと。来る東京2020オリンピック競技大会では、ポルトガル陸上競技代表選手が快適で効果的にキャンプが出来るよう協力したい。」と述べました。



【芸術文化スポーツ振興課】

「2018 安仁フォーラム～新時代与特色文化小鎮～」に 由布市が参加しました

2018年9月26日～29日にかけて、中華人民共和国四川省成都市大邑県安仁古鎮で「2018安仁フォーラム～新時代与特色文化小鎮～(特色ある小さなまちづくり)」が、中華文化促進会・国务院参事室の主催により開催されました。

この「安仁フォーラム」は2016年から開催されており、今年で3回目、中華人民共和国内で「まちづくり」をテーマとした討論を重ねてきた模様。今回は先進事例を参考にするためという事で、イタリア・フランス・チュニジア・韓国等に加え、日本からは、鳥取県北栄町と大分県由布市が招待され、計10市の特徴的なまちづくりの取組や課題等について発表が行われました。

由布市からは、「温泉小鎮」ということで、由布市湯布院町を中心とした「観光とまちづくり」というテーマで発表を行い、由布院地域が取り組んできた取組としてクアオルト構想・辻馬車の運行・各種イベント「映画祭・音楽祭・牛喰い絶叫」の開催等や、「潤いのあるまちづくり条例」や「景観対策」等近年の課題と対策状況と併せて、市内の観光PR動画を放映し、地域内の魅力発信を行いました。

現在由布院地域を訪れる、中国人観光客は約53,500人(※台湾・香港を含む、H27年度調査)であり、今後も増加傾向になると予想していますので、更なるインバウンド対策と併せて国際交流による相互の情報交換の必要性を感じるフォーラム参加となりました。

【由布市総合政策課】



湖北省研修員レポート ♪ 大分体験記 ♪



9月21日から24日まで、私は世界最大級の観光イベント「ツーリズムE XPOジャパン2018」に参加しました。展覧会には、世界130カ国以上の国・地域の観光局、航空会社、空港、旅行会社など、旅行・観光に関連する企業や団体が出展して、国や地域の魅力、現地の最新情報、航空会社の最新サービスなどを紹介しています。会場は日本国内展示、海外展示エリアに分かれており、私は主に大分ブースの宣伝活動に参加しました。この大規模なイベントに初めて出席することに非常に興奮しました。展覧会では、中国人観光客を対象とする大分県の観光情報を宣伝し、とても疲れました。このすばらしい活動に参加できたことは、私のこれからの人生の中で、忘れられない貴重な経験となりました。

【湖北省からの研修員 陳娟(ちんけん)さん】

大分市からのお知らせ

今月号より、県内各市町村からのお知らせを掲載することになりました。第1回目となる今回は、大分市からのお知らせです！



大友宗麟は、1530年に豊後府内(現大分市)で、誕生しました。

大友家第21代の当主であり、聖フランシスコ・ザビエルとの出会いをきっかけに、多くのポルトガル人宣教師がこの豊後府内に訪れるようになりました。これを契機にいわゆる南蛮貿易が行われるようになったと言われています。

大分市では、2030年(平成42年)に生誕500年を迎える「大友宗麟」と「南蛮文化発祥都市おおい」を市の「顔」として全国に情報発信していく大友宗麟プロモーションに取り組んでいます。

〈大分駅前の「顔」〉

駅ビルを一步出るとそこには大友宗麟公の像と聖フランシスコ・ザビエル像、世界地図、そしてザビエル城をイメージした城門が建ち並び、南蛮文化の香りが漂います。



聖フランシスコ・ザビエル像



大友宗麟公像と世界地図

〈宗麟公まつり〉

2018年10月13日(土)・14(日)に行われた第6回宗麟公まつりでは、郷土の英雄「大友宗麟」とその時代の様々な功績や史実を多くの方々に身近に知っていただけるよう、豊後大友宗麟鉄砲隊演武や神楽、太鼓演奏などのステージイベントや伝統芸能の披露などが行われました。

また、市内中心部にて武将や南蛮人に扮した人達による大友宗麟武者行列も行われるなど「大友宗麟公」とその時代を感じる2日間となりました。



〈南蛮BVNGO交流館〉

2018年9月30日(日)にオープンした南蛮BVNGO(ぶんご)交流館は、「宗麟の生きた時代を体感できる施設」をコンセプトに、映像を見て大友宗麟や大友氏遺跡を学んだり、当時の衣装を着て写真を撮るなどの体験をすることができます。



〈大友館の庭園復元で壮大な歴史ロマンを体感〉

大友氏遺跡やその周辺の中世のまちの跡から、豊後府内が国際貿易都市として栄華を誇ったことを示すものが多数出土しています。現在大友館庭園の復元整備工事が本格化し、2020年春には完成予定です。戦国時代の大名の館の中では日本最大規模。東と西で異なる池の景色が楽しめることも見どころの一つです。



その他大分市のイベントや国際交流員の日記など随時情報を発信しています!!

★大分市国際化推進室公式Facebook★

<https://www.facebook.com/OitaCityKokusai/>



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（10月）

News

【10月6日(土)】国民文化祭 開幕

「おおいた大茶会」と銘打った「第33回国民文化祭・おおいた2018」と「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」の開会式が皇太子ご夫妻をお迎えし大分市いいちこ総合文化センターで行われました。年齢・障害のあるなしに関係なく歌やダンスのオープニングイベントが盛大に開催されました。これを皮切りに県内全域で51日間に渡り164事業が行われます。

News

【10月16日(火)】OPAM来館者数200万人突破

2015年4月に開館した県立美術館（大分市寿町）が今年3年目6ヶ月となる16日に、来場者数200万人を突破しました。同館は過去に「ジブリの大博覧会」などを開催し、現在同館には国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭にあわせ障害者芸術や科学分野、日本芸術など幅広い作品が集結しています。

News

【10月29日(月)】小型衛星「てんこう」打ち上げ

大分県内の製造業4社が共同開発プロジェクトに参画した小型環境観測衛星「てんこう」が、鹿児島種子島センターからH2Aロケットに乗り打ち上げられました。同企業は小型衛星の14面体パネルの内外部構造の製作や通信管理システムなどを担当しました。このプロジェクトは九州工業大学が主導で、最長2年間宇宙空間に留まり、宇宙線などを観察する計画です。

※国際政策課にて新聞等を元に作成

「大分で会いましょう。」プロジェクト第5回ライブ配信のお知らせ

全国から多彩なゲストを迎え、大分県のまだ知られていない魅力について各地で楽しいおしゃべりを繰り広げる移動型ネットラジオ放送局「大分で会いましょう。」の第5回目のライブ配信を12月4日(火)に行います。

今回のテーマは「建築」。ゲストには、国内外のアート・コマーシャルの領域で活躍中であり、2020年のドバイ万博日本館のクリエイティブアドバイザーでもある、株式会社ライゾマティクス代表取締役の齋藤精一さんと、数奇屋大工として修行後独立し、グローバルな活動を展開している建築家で美術家の佐野文彦さんのお二人をお迎えします。大分の有名建築はもちろん、知る人ぞ知るオモシロ建築も取り上げ、自由に語ります。

「大分で会いましょう。」ライブ配信

【ゲスト】齋藤精一（株式会社ライゾマティクス代表取締役）、
佐野文彦（建築家／美術家）

【配信予定日時】12月4日(火) 19:00～



※次回ライブ配信はこちらから
ご覧いただけます。 <https://oita.love>

【広報広聴課】

From our Reporters



県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



金 眞雅
(Kim Jina)

秋の気配が漂っているこの頃、どこか出かけたい気持ちになって、他の国際交流員を誘って西大分へ行って来ました。西大分までは、自転車で行くことにしたので、1年近く放置していた埃まみれの自転車を適当に拭いてから乗っていきました。昼間はまだ日差しが強くて暑かったですが、自転車をこぐと涼しい風が吹いてきてとても気持ち良かったです。西大分のかんたん港園はきれいな海が眺められて、おしゃれなカフェもあり、お気に入りの場所のひとつです。今回一緒に行った交流員もとてもきれいなところだと言ってくれました。かんたん港園のあっちこっちはすでに落ち葉がたまっていたり、緑色から茶色に変わろうとしていたり、天気も景色も写真を撮るのには好都合でした。今日のような秋晴れの日が長く続いて欲しいです。



セーラ・バックレイ
(Sarah Backley)

若い頃から私の主な趣味は料理をすることでした。去年日本へ引っ越してからこの趣味を維持していますが、味醂、醤油、酒などのイギリスで使っていた料理成分と違う食材に慣れるまで時間がかかりました。

それで、9月27日に、イギリス料理の講師として南大分公民館での料理教室に呼ばれ、18名の参加者に二種類の料理と一種類のデザートの調理方法を教えました。伝統的なカッターパイやライスプディングを入手可能な材料で日本人の口に合うように作りました。

この経験を通して多くの新しい人と出会え、限られていても、私のイギリス料理についての知識を共有することができました。それと、イギリス料理が不味いと言うステレオタイプが間違っていることを見せるための良い機会でした！



方 応梅
(Fang Yingmei)

今週末、自転車で日帰り旅行をしました。涼しい風に吹かれながら、舞鶴橋を渡っている時にまるで空を飛んでいる小鳥のようになった感じでした。

10分ぐらいで平和市民公園に着きました。公園にある「ムっちゃん平和像」は二度と戦争による悲惨な惨禍を繰り返さないために、また恒久平和のシンボルとして、平和の輪がさらに広がることを願って昭和58年に建てられたものです。公園は多くの子供たちが楽しげにブランコに乗ったり、追いかけてっこをしたりしてとても賑やかです。このような平和風景が全世界の人々が肩を並んで、手をつないで頑張ればきっと実現できると思います。公園を出て、大分県立埋蔵文化財センターへ足を運びました。幸運に恵まれて、茶道裏千家淡交会県立大分商業高等学校茶道部による呈茶席に招かれて高校生からの御点前を楽しみながら、茶道の礼儀とか、薄茶のやり方と飲み方を教えてもらいました。大変有意義な一日でした。



シェ シンラン
(Xie Xin Lan)

大分といえば、青々と茂る森と群がり連なる山々です。ある晴れ晴れした旅日曜日の日曜日に、同僚と熊野磨崖仏へ向かいました。熊野磨崖仏は、「大日如来」と「不動明王」の二つの磨崖仏が並んでおり、国指定の文化財となっております。このご立派な史跡を観るため、まずは山のふもとにある鳥居から100段も続く石段を登らなければなりません。山の奥まで延びるこの石段の道は、昔、鬼が築いたと伝えられています。あまりにも険しく、登りは終わった途端に両足が生まれたての小鹿のように震え、さすがに「鬼の石段」にふさわしい道でした。とはいえ、磨崖仏の尊いお姿を見て、感動が胸に押し寄せた瞬間、本当に登った甲斐があったと思いました。皆さんも、磨崖仏と六郷満山の景色を堪能できるスポットで座りながら、森の澄んだ空気を全身にめぐらせてみませんか。



～編集後記～

今年の1月に大分川に約50年ぶりに新しい橋として宗麟大橋がかかりました。宗麟大橋の名前は一般公募で選ばれましたが、橋のもとに大友宗麟の館跡(やかたあと)があったことに由来するものです。今月から県内各市町村からのお知らせを掲載することとなりましたが、第1回は大分市の大友宗麟プロモーションのお知らせです。最近は大友宗麟をテーマにした小説も出版されています。南蛮貿易に力をいれ、西洋文化を積極的にとり入れたことで、当時の大分を南蛮情緒あふれる国際都市として発展させた大友宗麟はWhat's up, OITA!にふさわしい話題です。

(国際政策課長 徳野 満)

県内の最新の観光情報はこちらからご覧ください！

(ツーリズムおおいたHP)

<https://www.visit-oita.jp/>

話題提供のお願い！

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！

(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:小野

【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp